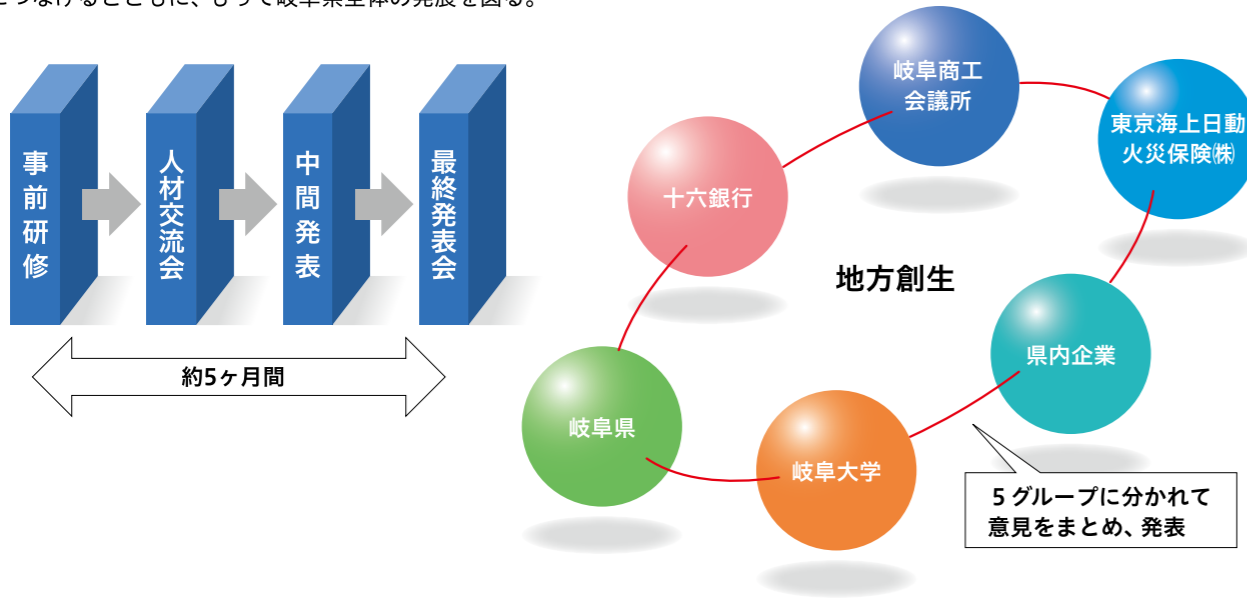


岐阜県創生研鑽会とは

異業種にまたがる地域企業の中堅社員及び地元大学生がグループを組み、地元の現状と未来をテーマにワークに取り組む。数カ月間、複数回に亘る意見交換や議論を通じ社内の常識に捉われない思考の多様性や深化を実現し、将来各社の核となる人材の育成につなげるとともに、もって岐阜県全体の発展を図る。



2017年度(初開催)

テーマ 「地域資源を生かし、活力溢れるふるさと岐阜県づくり」

参加企業 25社
地元大学生 岐阜大学地域科学部地域政策学科 学生5名



2017年度開催風景

2018年度

テーマ 「岐阜県の地域・産業・企業発展に繋がる仕組みや仕掛け」

- ①岐阜県 産業人材確保対策
- ②岐阜県 第4次産業革命推進

参加企業 24社
地元大学生 岐阜大学地域科学部地域政策学科 学生6名



2018年度開催風景

2019年度

テーマ 「一人ひとりの幸せと確かな暮らしのある ふるさと岐阜県を目指して」

- ①「清流の国ぎふ」を支える「人づくり」
～産業人材確保、人材教育、年齢性別国籍等に左右されない多様な人材活用等～
- ②「清流の国ぎふ」を支える「地域づくり」
～地域資源を生かしたサービスや機能の変革、企業誘致、IT活用、観光産業の基幹産業化等～

参加企業 20社 29名
地元大学生 岐阜大学地域科学部地域政策学科 学生5名

特集

— みんなで育てる地域のチカラ —

岐阜県創生研鑽会



～地方創生～

日本では、東京一極集中に見られる大都市圏への人口・産業の流出が進み、今後の地域間格差の拡大が懸念されています。

このような中、各地方では観光振興・産業振興だけでなく、雇用安定や結婚育児の支援策を通じ、人々が暮らしやすい魅力あるまちづくりの実現を目指す「地方創生」の取り組みが進んでいます。

私たちのまち 岐阜はどのような姿を目指し
その実現に向け何を行っていくべきか？

当所では、岐阜に住み 学び 働く人々が共に考えて議論し、
明るい岐阜の未来に向かうためのヒントを導き出す
「岐阜県創生研鑽会」を実施いたしました。



——岐阜県では若者人材確保に向けた様々な施策が打ち出されていますが、今なお県内大学卒業生のおよそ6割が県外に就職しているという現状です。本日皆さんのご意見を伺い、現状を改善するヒントが得られればと考えています。

ではまず、岐阜大学生の進路の状況について富樫先生にお伺いします。

富樫 当校は岐阜県と愛知県の出身者がそれぞれ4割、合わせて8割が地元出身者と多くを占めています。理系学生の就職先は他県にも広がっていますが、教育学部・医学部は地元を選択する学生が多く、地元志向が強いですね。

岐阜県の場合、大学進学時に8割以上が県外へ出てしまっているのが問題です。近年地元の魅力を教える「ふるさと教育」が始まっていますが、若いうちからいかにして地元を魅

力を感してもらおうかが課題でしょう。

——学生のみならず、これから始められる就職活動で地域、業種、職種など重視する事は何でしょうか。

宮崎 一番は「地元での就職」。そして、子供を産んでも続けられる環境や制度が整っているかです。

富樫 今の学生は「子育て」や「ワークライフバランス」がキーワードですよ。

児玉 私も岐阜で働きたいです。幼い頃から岐阜が好きでしたが、大学や研鑽会で地元の社会人の方と接して思いが強くなりました。岐阜の人は温かいんですよ。外へ出たいと言う友達も多いけれど、岐阜の事をあまり知らずにそう言っているだけのように見えます。よく知る機会があれば考えは変わるのでは。

平野 私は、これからは地元で恩返しや貢献がしたいと思う反面、広い世界を見たい、東京や大阪の大都市に行ってみたいという気持ちもある。だからインターンやUターンという働き方も視野に入れています。

富樫 地方創生の時代と言いつつ、都会に集まる傾向は変わらない。ただ、逆にインターンやUターンで外から人が入ってきている。岐阜にも良いところがあるからです。

——希望の業界や職種はありますか？

児玉 公務員か民間か迷っています。民間なら金融系。お金という形のないものを扱うということ、自分を信頼してもらって初めてお客様になっていただけるやりがいがある魅力だと思っ

座談会

私たちが望む就職

現役大学生が語る生の声

——若者の職業観——

少子高齢化・人口減少時代に入りました日本では企業の人材確保が深刻で、特に「新卒者」の獲得競争が激化しています。学生優位の「超売り手市場」の今、彼らの就職観・人生観を理解し、自社で働くメリットを効果的に伝えることが大切ではないでしょうか。

今回は現代の若者の「就職観」にスポットを当て、岐阜県創生研鑽会に参加された岐阜大学生3年生の皆さんにお話を伺います。

- 岐阜大学のみなさま
地域科学部 教授
富樫幸一 氏
- 地域科学部 地域政策学科3年生
児玉結菜 さん(天野町)
- 宮崎若菜 さん(宮市)
- 平野敦子 さん(岐阜市)
- 市長
市村敦史 (当所 理事)

2019年度開催内容



1 事前研修

- ・研鑽会OBの経験談を聴き、研鑽会の流れやイメージを掴む。
- ・岐阜県、岐阜大学等より、当地域の現状と課題の解説。
- ・東京海上HRA講師からグループワークの進め方のコツや、地域経済分析システム RESAS (リーサス)の活用などを学ぶ。



2 人材交流会

- ・グループワーク
- ・内閣府RESAS専門委員・金沢大学専任講師講演 RESASとEBPM「仮説構築・検証のPDCAサイクル」



平日の終業後を中心にグループで集まり、ディスカッションやワークを重ねました



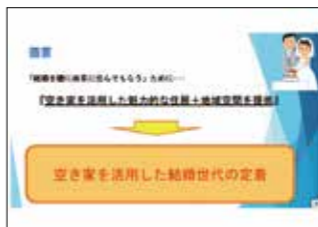
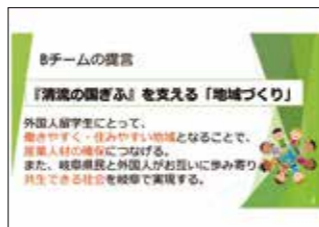
3 中間発表

グループごとにプレゼンテーション。中間時点で互いの進捗状況や取り組みを共有する。専門委員からの講評や他グループの発表内容から、新たな着眼点を得る



4 最終発表会

5ヶ月間に亘るグループワークの集大成として各々発表を行う。



研鑽会で出された問題提起、解決策案は岐阜県への提言として今後の県施策の参考として活かされます



座談会

現役大学生が語る生の声

私たちが望む就職 — 若者の職業観 —



児玉結菜さん

— 金融機関であれば県内にも数多くありますね。

児玉 給料や待遇はもちろん大切ですが、「地域密着」しているところが良いです。

宮崎 子育てや福利厚生を重視すると、おのずと公務員だろうと中学時代から考えていました。民間企業を知る機会が増えて魅力も感じていますが、考えはなかなか変わりません。

平野 具体的な業界の希望はないですね。待遇や福利厚生、あとは会社の雰囲気が良いところが良い。これからのいろんな会社を見て判断しようと思います。

富樫 研鑽会で地元で働く人と実際に接してどうだった？

平野 平日の夜集まることが多いのですが、メンバーが残業で遅れて来る事も多く「どの企業も大変だなあ」と実感しました。

宮崎 私の父は愛知県の会社に勤めていて、残業が多く大変そう。研鑽会で岐阜の方を見ていると、働き方

を知るのには良いことですよ。普通の大学生にはこうした経験が難しく、私たちは恵まれていると思います。

富樫 普通の大学では地域と接する機会が少なく、それでは地元で働くという選択に至りにくい。

宮崎 地域のことを考える機会がないし、考えようと思いきっかけがすらないと思います。

— 岐阜には良い企業がたくさんあるのに、情報発信力が弱いという声があるが

富樫 人材流出を抑えようと、県も企業も一生懸命やっているけれどなかなか形になってこない。

児玉 研鑽会メンバーに企業の人事担当の方がいるのですが、リクナビやマイナビなど大手サイトに載せるのは費用負担が大きいと聞きました。まず社名を知ってもらおう事からだと思いますが、B to Bの企業は一般の人に社名を知られていない分不利ですよ。岐阜県の企業名を挙げてみようというワークで、私は授業で知った企業を多く挙げられました。



富樫幸一氏



宮崎若菜さん

改革が進んでいるのか、会社が社員にちゃんと寄り添っているように見受けられました。福利厚生や働きやすさの点で岐阜が遅れているわけではないようなので、それを求めてわざわざ県外の企業を選ぶ必要はないと思います。

児玉 私のグループは皆さん大学時代に他県に出た経験があり、外からの視点を持っている。私は岐阜しか知りませんが、他と比較した岐阜を知る事が出来た。

実は研鑽会で岐阜県に就職した人と、県外に就職した人それぞれに理由を尋ねる調査を行いました。地元への愛着や、希望職種の有無が一番に挙がりましたが、これはそう簡単には対応できない。問題はその次に多かった「岐阜で働くイメージが湧かなかった」という意見。これは若い人が岐阜を知り、愛着を持ち、岐阜で暮らすイメージを持てる機会を作れば良いと思う。

宮崎 私たち地域科学部は岐阜愛の強い人が多い。企業はそういう地元志向の人に重点的にPRするのが効果的なのではないかと思っています。私の志望する公務員には国や県、

他大学や他学部の学生は数社に限界で、そんなものなのかと驚いた事があります。

宮崎 1年生と2年生の時に、「オール岐阜フェス」に参加しました。企業ブースをたくさん回って直接話が聞けてとても満足度が高かった。でもその話を他学部の学生にしても、そういう催しがある事すら知らない。良い就活イベントが学生に認知されていないのはもったいないと思います。

— 名古屋の異業種交流会「メッセナゴヤ」では、各ブースを回る学生向けツアーの企画があるが

児玉 学生の自主性に任せると、どうしても偏ってしまう。そういう風に半ば強制的に様々な企業を見せれば新たな発見や出会いにつながると思います。

平野 大きい会社はネットで調べるとHPはもろろん情報が豊富で、より興味が湧いてくる。逆に何も情報が出てこない企業がある。詳しく記載してくれると良いと思います。

— 親御さんの意向も大きく影響す



平野敦子さん

市など多種あるけれど、転勤はしたくないので必然的に市になるのかな。国や県の仕事にも憧れますが「働く手段」として現実に就職を捉えるところになります。

— 周りの男子学生はどうでしょうか

宮崎 男性は企業名で選ぶ傾向があるように思います。理系は希望職種が大手や県外にしかない場合もあるだろうし。ただ、正直なところ皆まだあまり深く考えていないんじゃないでしょうか。漠然と「地元がいい」「都会に出たい」と思っているくらい。現実的に考え出すと、やっぱり岐阜が良いとなる人が出てくると思う。

富樫 漠然とでなく岐阜で働く、暮らすとはどういう事か具体的にイメージさせることが大切。一般的な就職活動やインターンシップではそこまで至らない。

児玉 県外から岐阜大に来て岐阜を知り、気に入ってそのまま就職した先輩が何人かいますね。

宮崎 授業や、こうした研鑽会で地元

ると聞か

宮崎 私が家庭との両立を重視するのは母親の影響が大きいです。母は子育てとの両立が難しく仕事を辞めざるを得なかった。私たち子供にはそういう思いをさせたくないと思配してくれるのですが、親の世代の常識や感覚は今とは違う。それこそ中小企業は福利厚生が十分でない、残業が多い、ブラックだと決めつけている。そういった思い込みを払拭する為にも家族向けの説明会は大切かもしれないです。

富樫 地方の小さな会社をネットで探して東京から応募してくる時代。これまでは学生側の探し方も変わってきている。親御さんもネットで情報収集しますし、積極的な情報開示が必要ですね。

— ありがとうございます。

岐阜で生まれ育ち、岐阜で学ばれた皆さんが、この地の社会人として活躍されることが地域の大きな力となります。

これから多くの企業や団体と出会い、ご自身に合った職に就かれることを願います。